

○ 今年度の学校教育目標およびスクール・ポリシー (第1回学校運営協議会で承認)

1 学校教育目標	1 確かな学力・健やかな体・豊かな心の調のとれた人材の育成 2 自立力・共生力・自己実現力のある人材の育成 3 高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦できる人材の育成 4 地域社会の発展に貢献できる人材の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心の調和」の取れた生徒 ・「自立力」「共生力」「自己実現力」のある生徒 ・高い志とグローバルな視野を持って夢に挑戦できる生徒 ・地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎学力の確実な定着と主体的な学習態度の育成、授業規律の徹底 ・確かな技術や技能と生きる力を育む、特色ある工業教育の推進 ・信頼と愛情を基盤とした共感的な生徒理解に徹する積極的な指導の充実 ・将来の自己実現を目指すキャリア教育(進路指導)の推進 ・規範意識の高揚を図った部活動の振興	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・ものづくりに興味を持ち、他者と協議しながら主体的に学び、「ものづくり日本一」を目指す生徒 ・資格取得に興味を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦し、「資格取得日本一」を目指す生徒・部活動に興味を持ち、部活動と学習を両立し、3年間意欲的に取り組み、「部活動日本一」を目指す生徒

○ 教務部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・8割以上の保護者から「社会や地域から期待される魅力ある工業教育の推進」に努めているとの肯定的な評価を受けた。 ・本校が目指している『満足度日本一の工業高校』に関連した「生徒：本校に入学できてよかった。保護者：お子様はよろこんで学校に行っている」という項目において、肯定的な回答が約9割であった。 ・外部講師の講演や様々な体験等、授業以外の学習機会や学校行事が新型コロナウイルス感染症対策等により、その機会が大幅に減っているが、理解はして頂けている。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇岐阜工業高校の魅力を広く知っていただけるよう、あらゆる場面で本校のPRに力を入れる。また、SNSを活用する。 ◇進路実現を保証する視点からの基礎学力の向上、授業改善の実施。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・出前授業、地域のイベント、中学での高校説明会、本校での中学PTA見学会等での学科群、学科、各科研究部、教務部によるPRの強化。 ・学習指導係、担任、部顧問、保護者との連携強化と教務部を中心とした学習支援体制の再構築。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 入学者選抜における出願状況 (2) 夏の高校見学会の希望者数の増 (3) 成績優秀者増、成績不良者減	(1) 入学者選抜における出願状況 (2) 夏の高校見学会の希望者数の増 (3) 成績会議での成績優秀者や成績不良者の増減		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・夏の高校見学会及びオープンスクールにおいて中学生が興味を持つ体験内容で実施。 ・成績不良者指導後、勉強会を実施。 ・朝学習の実施。 ・Webによる課題研究発表会の実施など。	①夏の高校見学会、オープンスクール参加者数 ②成績不良者数 ③授業アンケート	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
12 成果・課題	○授業体験型のオープンスクールへの希望者が昨年より増加した。(中学生132名)一定の成果があった。 ○アンケート結果から「ホームページ等を用いて、保護者へ様々な情報を速やかに伝えている」では、肯定的な意見が9割。 ○今年度も公式Instagram(インスタグラム)を開設し、運用している。 ▲夏の高校見学会への参加者が昨年より減少した。(中学生656名、保護者361名) ▲スタディサプリを導入し、朝学習で取り組んでいるが、更なる活用について検討が必要。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学科選択までに、どちらの学科へ行っても満足できるよう、学科の魅力を生徒へわかりやすくPRする。 ・教育活動の質を向上させ、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努める。 ・本校の情報発信ツールであるHPやInstagramにおいて、各学科群・学科等のページについて内容の充実を図り、取り組みページの更新頻度を向上させる。 ・朝学習の取り組みについて検討し（実施教科の変更、回数）基礎学力を高める。
----	---------------	--

○ 生徒支援部（教育相談）

4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラルやマナーを身に付けさせる指導に対する満足度は、保護者85%生徒96%と高い評価であった。産業界で活躍する人材の育成という点においても継続していきたい。 ・いじめに対する指導で、保護者は良好67%わからない30%であったが、生徒は、87%良好と評価しており、いじめや差別を許さず、厳しく対応している姿勢が評価された。 			
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自らの行動に責任を持つ。積極的に自己を生かす。 ◇自己の存在感や所属感を味わう。自他の生命を尊重する。 ◇信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解。全校体制による教育相談。			
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会、学年会、学科主任会、連絡会において生徒情報を共有した。 ・個性の強い生徒に対する見守り指導を充実させ、教科担任会の開催をこまめに行い生徒理解に努めた。 			
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 生活委員会やMSリーダーズの活動 (2) 人権教育統一LHR「ひびきあい活動」 (3) 学校行事、部活動		(1) 学校アンケート（保護者・生徒） (2) いじめに関するアンケート（年3回） (3) 心のアンケート（毎月）		
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点	11	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会とMSリーダーズの活動として交通安全運動や、笠松町とタイアップしての挨拶運動や清掃活動を行うことができた。 ・スマートフォン使用の注意事項「あとがこわい」を周知徹底した。 ・いじめに関するアンケートに加え、心のアンケートを毎月実施、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、さらに、SC、SSWとの連携を図り、組織対応が行えた。 		①自主的かつ組織で活動することができたか。 ②情報収集と生徒理解に努め生徒指導を行うことができたか。 ③学校いじめ防止基本方針に基づいて、取組むことができたか。		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○常にアンテナを高くし、情報収集と生徒理解に努めることで、問題行動を未然に防ぐことができ、問題行動件数が少なくなった。 ○毎月、心のアンケートを行い、生徒の把握に努めることができた。これを活かし、いじめ防止にもつなげることができた。 ○身だしなみや、スマホの管理など自己管理能力を再確認する機会を多く作れた。 ▲安易な欠席、遅刻、早退が増え、基本的な生活習慣の定着に対する指導が課題である。 			総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
13	来年度に向けての改善方策案				
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を意識させる指導を徹底したい。 ・挨拶から始まる適正なコミュニケーションがとれ、TPOに適應した身だしなみが整えられるように指導を徹底したい。 ・教育相談案件や支援の必要な生徒への対応は、外部関係組織も含む全職員での組織対応を基本とし、生徒への対応を充実させる。 				

○ 進路支援部

全日制

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者へのアンケート結果では、進路情報提供等の進路支援に関して、昨年同様に概ね満足頂いており、来年度以降も更に充実を図りたい。 ・進路支援部が実施している昨年度卒業生に対する進路先に関する満足度のアンケートでも十分満足・概ね満足が80%以上を占めている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇自己を理解し、進路実現に向け主体的に選択決定できる能力や態度の育成 ・様々な体験を通じ、進路適性の理解と進路選択決定能力を育成 ・情報量豊かな進路ガイダンス、進路相談の充実 ・発達段階に応じたキャリア教育の充実 ・育友会、家庭及び企業等の教育力を活かした連携 ・職員の共通理解の下、計画的な進路支援と指導体制の確立 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・就職担当・進学担当が、各企業や大学等の担当者や卒業生と積極的に情報交換し、キャリア教育、ガイダンス機能、進学学習支援体制の充実を図る組織体制 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路の手引きの有効活用 (2) 各種調査による進路意識の高揚と基礎力・SPI・就職模試等による自己理解 (3) 進路ガイダンスの充実と企業見学・保護者向け説明会の実施 (4) 企業訪問の実施と大学説明会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 将来を見据え目的意識を持った進路選択と面接や手続きの対応ができたか (2) 各種検査結果を踏まえた自分自身の適性と基礎力の実態の把握 (3) ガイダンスアンケートの結果の分析と企業見学の感想 (4) 企業訪問報告書の確認と入試情報の提示 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの活用や基礎力・SPI・就職模試、諸調査により自分の能力・適性など自己理解を深める。 ・企業・大学等の外部講師から職業について様々な説明を聞き、進路意識を高める。 ・企業見学等の体験を通じ、職業に対する意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己理解を深め、学習意欲の向上を図る。 ② 進路選択の決定能力を養う。 ③ キャリア教育の充実と進路意識の高揚を図る。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
12 成果・課題	<p>○今年度の進路関係行事はほぼ予定通り実施することができた。インターンシップや進路ガイダンス、卒業生と語る会などでは企業・進学先の担当者や卒業生を外部講師として招き、生徒に適した進路情報が提供できるように心掛け実施できた。</p> <p>▲進学希望者の割合が増えており、外部模試の実施方法や進学情報の提供方法等を検討していきたい。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや企業見学、進路ガイダンス等の実践的な体験学習の場を充実させ、より一層生徒が主体的に進路選択できるようにサポートしていきたい。 ・新入試制度の進学情報等を職員間で共有し、しっかりと活用できるように進学指導体制を整えていきたい。 		

○ 特別活動部

全日制

<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、耐寒強歩大会など昨年一昨年と中止した行事を今年度は縮小し実施することができた。学校行事への充実度（学校行事を適切に計画しているか）について生徒・保護者ともに良好な評価をしている。（生徒94.9%、保護者94.1%） ・部活動の活発度の評価（適切な管理体制）について生徒評価は昨年並み、保護者評価は向上している。（生徒87.9%、保護者77.6%） ・生徒会活動の活発度はこの2年間で少しずつ向上している。（令和2 60.1%、令和3 69.1%、令和4 71.5%） ・ボランティア活動への取り組みは昨年並みの評価であった。（生徒71.4% 昨年70.3%） 	
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実とリーダーの育成 ・部活動、HR活動を通した生徒の学校生活の充実 ・ボランティア活動への積極的参加 	
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と特別活動部職員との連携を図る。 ・特別活動部と各学科、各学年との連携を図る。 ・部活動の活性化と各部活動への支援と連携を図る。 	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>(1) 執行部会の定例化と活動内容の随時報告 (2) 生徒会行事の早期計画と役割分担決定 (3) 執行部の自主的活動支援</p>	<p>(1) 生徒会行事後のアンケートの実施と反省 (2) 行事が計画に沿って実施できたかの確認 (3) 生徒、保護者、評議員による評価</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事（運動会・文化祭）について生徒会執行部を中心に計画的に主体的に取り組めた。 ・定期的に「生徒会だより」を発行し、学校行事部活動紹介、生徒会活動などを紹介した。 ・全校生徒へ「ペットボトルキャップ回収」を呼びかけた。 ・規模は縮小されたが、3年ぶりの運動会開催、育友会参加の文化祭開催と来年度以降につながる行事が実施できた。 	<p>① 生徒会行事の運営状況 ② 全校生徒の興味関心 ③ 生徒会の自主的活動</p>	<p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>12 成果課題</p>	<p>○生徒会を希望する生徒も多数出るなど意欲的な執行部であった。自らすべきことを考え、相談に来るなど前向きな姿が目立った。 ○3年ぶりに実施した運動会は応援団の廃止や競技種目の削減など規模は縮小されたが従来の学科対抗から学科群対抗の4団編成で実施した。文化祭についても生徒会執行部が自主的に活動するなど円滑な運営ができた。 ○Web配信での実施となった表彰式、壮行会も円滑に運営できた。 ▲部活動については各部顧問間で連携を取りながら次年度以降の活性化を図るため議論の必要性を感じた。 ▲生徒会執行部をはじめ、各HR委員、各部活動の部長、副部長などを中心とした学校の中心となる生徒の育成も必要である。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部顧問会議の充実を図る。（部活動の活性化、リーダーの養成） ・生徒会執行部の定例化の継続、生徒会活動の広報活動。 ・生徒会活動が生徒全体の学校生活の充実につながる工夫。 ・運動会、文化祭の内容精査と関係分掌との連携。 		

<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NO.6「学校からの連絡文章等は保護者に確実に届けられている」は、令和3年度も生徒アンケートでは90%であったが、保護者アンケートでは86%であった。どちらの結果も低くはないが、今後はメルマガ等も利用して100%を目指して徹底していきたい。 ・NO.7「学校は、保護者が授業や学校行事などを参観する機会等の有無、実施方法について、新型コロナウイルス感染症対策等、生徒の安全を最優先して適切に計画している。」今年度はオンライン参観する機会を設定し、実施することができた。 	
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校そして会員相互の意思の疎通を図ると共に、会員の資質の向上をめざす。 ○様々なイベントの参加を通して、会員相互の交流を深める。 ○会員目線でのメール配信やICTを積極的な活用により情報を共有し、会員が学校教育に参加する環境を整える。 ○同窓会からの支援を余すことなく活用し、育友会の活動を充実させる 	
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事にはコロナ感染のリスクが伴わないように配慮した上で積極的に参加していただく。 ・役員研修として、校内外の研修に参加、育友会指導者としての資質向上を図る。役員・保護者の親睦を図る。 ・朝の交通当番や面接指導にも積極的に参加していただく。 ・同窓会行事の充実(会報の発行・総会) 	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>(1) 学校行事の連絡やPR。HPやメールマガジンの活用し、家庭と学校の連絡を密にする。 (2) 学校内外の研修を設定。 (3) イベント毎にアンケートを取り、次の取組にフィードバックをかけ、よりよい取組を増やす。</p>	<p>(1) 保護者の行事等への参加率・充実度・関心度 (2) 生徒及び保護者等のアンケート (3) 同窓会総会の出席者数 総会誌への広告協賛数、チケットの売り上げ</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会をメールで配信。 ・HPやメールマガジンの配信で保護者へ呼びかけ、家庭と学校の連絡を密にする。 ・同窓会行事の充実(会報の発行) 	<p>① 総会への出席率 ② 育友会行事への参加 ③ 同窓会行事</p>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○役員会など保護者の参加者が多くなった。 ○耐寒強歩大会はシンプルな形での実施となり、保護者・職員の負担を減らすことに成功した。 ▲保護者の学校への興味関心は高いため、参加して良かったと思っただけの行事づくりをいかに実践するかが課題として残る。 	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会への参加率を上げることは今後も難しいと考えられる。しかし、今年度のようにメールで直接保護者に配信することと、保護者同士の交流の機会を設ける事や、授業参観等を実施することで参加率の向上を目指したい。 ・参加者が少ない地区別懇談会も3会場ではなく、1会場での実施とし、業務の軽減を図りたい。 ・来年度の文化祭もバザーと展示を実施。 ・家庭との連絡手段としてのメルマガ等一方通行にならないようForms等を利用し改善していく。 		

○ 保健厚生部

全日制

4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から安全・衛生面への配慮は一定の評価を得ることができた。 ・安全教育及び安全管理体制への関心がコロナ禍で高まっており、学校への期待も大きい。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇保健管理 <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断検査結果の活用と事後指導の徹底 ・事故発生時の校内体制の周知徹底と救急法講習会の開催 ◇保健指導・安全指導 <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の定期的な実施 ・感染症予防促進（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等） ・職員の健康保持増進のサポート 	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員会活動の充実 ・保健厚生部と各学科、各分掌との連携 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任・家庭・学校医などと連携し、定期健康診断の実施と事後指導の徹底を図る。 (2) 保健委員会活動や保健だより等を活用し、感染症予防などの啓発活動を行う。 (3) 事故発生時の未然防止を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校アンケート（保護者・生徒） (2) 統計調査や事後措置率 	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だより、すこやか（保健委員会作成）の発行を毎月行った。 ・保健委員会活動の中で、水質検査、温室度検査、教室の換気、石鹸の補充などを行った。 ・熱中症セミナー、職員救急法講習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 統計による実態把握 ② 保健委員会活動報告状況 ③ 講演会後のアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教室にCO2モニターを設置し、換気の啓発に努めた。 ○新型コロナウイルス感染症対策において、感染対策物品の整備や校内体制の確立、生徒、保護者、職員への啓発に取り組んだ。 ・ ○熱中症セミナーを通して、熱中症予防と対応について理解を深めた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲歯科の事後措置率をいかに上げるか。 ▲感染症対策への意識の低下。 	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の取り組みの継続と生徒に意識を定着させる。 ・保護者懇談の機会を利用して、各健診の事後措置率を向上させたい。 ・安全点検により明らかになった校内危険箇所を事務部と協議して早急に改善する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月17日

<p>全日制</p> <p>①教務部</p> <p>授業以外の体験活動や学校行事が、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により減っているにもかかわらず、生徒や保護者からは肯定的な高い評価が得られていることは、来年度に向けさらに期待が持てる。朝学習の取り組みについては、学校の目指す方向を明確にし生徒の意見を聞きことが大切である。</p> <p>② 生徒支援部</p> <p>基本的なモラル・マナー指導では、生徒・保護者ともに肯定的評価が高く素晴らしい。個々の生徒に応じた指導の充実が見られる。また、積極的な教科担任会の開催などで生徒理解に取り組んでいることが高評価につながっている。</p> <p>③ 進路支援部</p> <p>生徒・保護者へのアンケート結果では、昨年同様におおむね満足との高い肯定評価ということは素晴らしい。</p> <p>④ 特別活動部</p> <p>生徒や保護者ともに90%を超えた高い評価を得ている。今後は、生徒会活動や部活動等について、生徒の自主性を高めるよう個々の生徒に響く指導が大切である。</p> <p>⑤ 渉外部</p> <p>メルマガ等も利用して100%を目指して、保護者への情報発信の強化して欲しい。</p> <p>⑥ 保健厚生部</p> <p>総合評価 A を目指して、今後の課題の成果を期待したい。</p>
--

